小　麦「さとのそら」栽培指針

茨城の小麦を元気にしよう！

特　性

- コムギ縞萎縮病に強い
- 出穂期、成熟期が早い
- 稈長が短く、倒伏に強い
- やや多収

「さとのそら」の生育・収量（H24～28年産の平均）

試験地	出穂期（月・日）	成熟期（月・日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	収量（kg/10a）
水　戸	**4.23**	**6.10**	**88**	8.8	730	**546**
龍ケ崎	**4.17**	**6.02**	**82**	8.2	649	**559**

注）収量は所内坪刈りデータによる

耕種概要　水　戸　播種期：11月4日～8日　播種量：8kg/10a　播種様式：条間30cmドリル播
基肥施肥量N-P_2O_5-K_2O：6-6-6kg/10a　無追肥

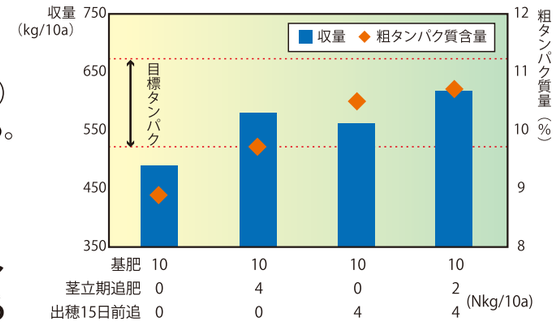
龍ケ崎　播種期：11月1日～11日　播種量：8kg/10a　播種様式：条間30cmドリル播
基肥施肥量N-P_2O_5-K_2O：8-12-11kg/10a　追肥窒素量：4kg/10a
（茎立期）

基　肥

- **窒素量６～７kg/10aが基本**

地力が高すぎなければ、1.5倍（窒素量9～10kg/10a）まで増量できるが、タンパク質の増加に気をつける。

「さとのそら」の施肥法と収量・タンパクの関係



（平成22年11月22日播種、龍ケ崎市、中粗粒灰色低地土）
※試験地の慣行施肥は、基肥N8kg/10a+茎立期追肥N4kg/10a

追　肥

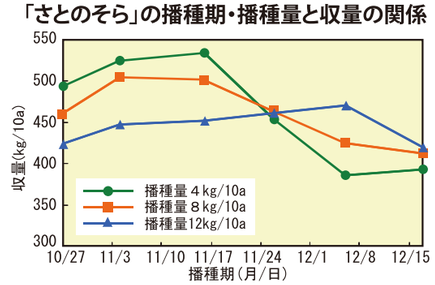
- **収量向上には茎立期（適期播きで３月上～中旬頃）に窒素量２～４kg/10aを基本とする**
- **タンパク質含量向上には、出穂15日前に追肥する**

※目的にあわせてどちらかを選択

播　種

- **適期は11月上旬～中旬、その範囲内で、県北では早めに、県南・県西では遅めにする**
- **適期の播種量は８kg/10a**
- **播種深度は２～３cm**

「さとのそら」の播種期・播種量と収量の関係



高品質生産のための５つの条件「土作り」「輪作」「排水対策」「適期播種」「赤かび病防除」

麦踏み

霜による株の浮き上がり防止　茎数・穂数の増加　耐寒性・耐倒伏性向上　徒長防止

- **年内１回、年明け２回を目標に**

3葉期から茎立期前まで。　土が乾いた天気の良い日に、10日以上の間隔をおいて行う。
茎立期の目安：主稈長が2cmに達した日。　適期播きで、県南3月上旬、県北3月中旬ごろ。

そば混入防止

そばはアレルギーの原因となるので、１粒でも混じると販売できません

- **除草剤の散布**

・アクチノール乳剤は、穂ばらみ期までに散布する。
・バサグラン液剤（ナトリウム塩）は、収穫45日前までに散布する。
・残ってしまったそばは、収穫までに手取りで完全に除去する。

除草剤名	薬剤量	水量
アクチノール乳剤	100～200ml/10a	70～100l
バサグラン液剤	〃	〃

平成28年9月27日現在

赤かび病防除

農産物検査時の赤かび粒の混入限度は0.0％であり、それを超えると規格外になります

- **防除適期**

開花始期～開花期（出穂期7～10日後頃）
※1 回目の薬剤散布後、発病の好適条件が続く場合は、7～10 日後に
　2 回目の散布を行う。ただし、その際は使用回数や収穫前日数に注意する。

収穫・乾燥・調製

- **適期収穫チャート（※）を用いて適期収穫につとめる**（※農林61号用を参考にする。）
- **調製網目：小麦2.3㎜を使用**

その他の管理

- **種子は毎年必ず更新し、種子消毒を行う**

※農薬の使用は、ラベルの記載内容および最新の登録内容を確認のうえ使用してください。
※農薬の使用基準を守り、飛散〈ドリフト〉には十分に注意してください。

茨城県・（公社）茨城県農林振興公社